

日本人類学会進化人類学分科会第 39 回シンポジウム  
「ヒトにとってオトナになるとはどういうことか？」

2017 年 6 月 17 日（土）13:00～17:45  
キャンパスプラザ京都 6 階・第 8 講義室

近年の日本では少子高齢化がすすみ、成人年齢の引き下げが話題になっている。そこにはさまざまな社会的な思惑があるが、ヒトのオトナとはどういうことかについての人類学的知見は、あまり議論の対象とはされていない。霊長類一般に、ワカモノ期は性成熟からフルアダルトまでの発達段階のひとつとして認められ、進化人類学では青年期が長いことはヒトに固有の進化的特徴とされることもある。そこで、今回のシンポでは、形態・生態・生理・発達・認知などの人類学にかかわる諸分野から話題を提供していただき、ヒトの成長、発達、成熟、青年期などについて、サルとヒトとの共通点や、進化傾向などを、多面的に検討したい。

- 13:00 趣旨説明 鈴木滋（龍谷大学）
- 13:10 濱田穰（京都大学）「オトナになること：身体成長・発達・成熟から」
- 14:00 今村薫（名古屋学院大学）「サンの子ども期の行動と、成人儀礼」
- 14:50 休憩
- 15:00 山内太郎（北海道大学）「ヒトの成長：ライフヒストリーの進化と成長パターンの変化（仮題）」
- 15:50 明和政子（京都大学）「思春期に特徴的なヒトの脳発達と社会的認知」
- 16:30 休憩
- 16:40 コメント 1：國松豊（龍谷大学）
- 16:55 コメント 2：田島知之（京都大学）
- 17:15 総合討論
- 17:45 終了

懇親会（京都駅近の居酒屋）を予定しています。みなさま（とくにワカモノ）のご参加をお待ちしています。

連絡先：鈴木滋（龍谷大学） [suzuki@world.ryukoku.ac.jp](mailto:suzuki@world.ryukoku.ac.jp)